

2024.10.31 (木)
第 17 回例会
(通算3779回)

2024-2025 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第86代会長 高橋 直人
副会長 吉田 英一
幹事 東堂 光春
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2024-2025 年度
国際ロータリーテーマ



2024-2025 年度
R1会長 ステファニー A. アーチック
第 2500 地区ガバナー
小谷 典之 (帯広西 RC)

本日のプログラム 職場訪問例会 (日本銀行 釧路支店)(職業奉仕委員会)

次週例会 講師例会「YOUはどうして釧路へ？」(プログラム委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト
- ソングリーダー：中村 司君
- 会員数 105 名
- ビジター
- ゲスト

会長の時間 高橋 直人会長



会員の皆さま、
こんにちは。本日は日本銀行釧路支店支店長・鈴木会員のご尽力により日本銀行釧路支店さんの職場訪問例会です。

私が入会してから 3 回目の訪問になります。新店舗に移転されてからは 2 回目となります。そこで、新紙幣が今年の 7 月から発行になっておりますので、鈴木支店長は当然ご存知と思われそうですが新紙幣の肖像について調べてみましたので、ここでお話いたします。

まず、お札に肖像画が利用される理由は何かです。おおきな理由として、ふたつ挙げられると思います。第一は変造防止のためです。私たちは人の顔を見分けることに慣れているため、銀行券の肖像画が少しでもズレたりボヤケていると違和感を持ち、変造防止につながります。第二は、人々に親近感を持ってもらうためです。その国で良く知られている政治家・文化人・有名人などを描き、その人物の業績などを再認識し、親近感を持ってもらうとともに銀行券自体について認識を深めてもらう狙いがあるそうです。

肖像の人物選定に基準はあるのでしょうか。お札に使用されている肖像の人物選定に明確な基準があるわけではありませんが、注意が払われている点がいくつかあります。極力実在の人物で、業績があり知名度が高

く、親しみやすいなど国民から尊敬される日本を代表するような人物であること。変造防止の観点から簡単に複製できず、かつ、人の目を引く特徴のある顔であること、だそうです。

世界最高級の印刷技術で印刷された日本銀行券を大切に、たくさん使い流通し経済活動につなげていきたいと思えます。

以上をもちまして会長あいさつといたします。今日も楽しい例会にしましょう。よろしく願いいたします。

■本日のプログラム■
職場訪問例会 (日本銀行 釧路支店)

職業奉仕委員会 田中 弘明委員長



皆さま、こんにちは。職業奉仕委員会の田中です。よろしく願いいたします。本日は大勢の方にお集まりいただきまして

ありがとうございます。13 年ぶりの開催となります。今年は新紙幣の発行で日銀さんの見学会も増えているということで、すごく楽しみにしております。

今回は、駐車場のことでパレスボールさんと N T T さんにお借りすることができました。ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。この後は、2 グ

ループに分かれての見学となります。
鈴木支店長、よろしくお願いいたします。

ご挨拶 日本銀行釧路支店 鈴木 正信支店長



皆さん、こんにちは。日本銀行釧路支店によるごそお越しくできました。私の話よりも、時間も限られていると思いま

すので、私は当支店の誇る精鋭4名にこれから全てを託したいと思います。

3年前にもあったということですが、新しいお札に代わっております。新たな気持ちで偽造対策について学んでいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

説明員によるご説明



はじめに、日本銀行釧路支店の歴史についてご紹介したいと思います。

当店は昭和27年1952年に釧路市大川町で開業い

たしました。実は、それよりも前の明治時代に日銀は北海道に進出しております。札幌・函館・根室の3出張所が開設されまして、その根室出張所所属として釧路派出所が同時に開設されています。ですが、たった5年で廃止になってしまいます。その後、昭和27年になるまで道東には日本銀行の店舗はありませんでした。

第二次世界大戦が終わった後、道東は農林水産業が大変盛んで、農林・水産・石炭などの天然資源が豊富な道東地区は、わが国経済を再建するうえでとても重要だと国からも重要視されるようになりました。その中で、道東の開発促進と金融の重点化を図ることが国から要請されたのです。

釧路の経済の発展のためには、現金がうまく回って円滑に流通すること、日本銀行の調査力がとても重要だと地元の行政とか商工会議所が「ぜひ、道東に日本銀行を作ってください」と声を合わせて要請してくださいました。地元からの強い誘致運動に支えられて昭和25年5月に釧路支店の設置が決定されています。

これは、竣工当時の旧営業所が昭和25年、まだ完成していない現場です。幣舞橋の所にある店舗です。隣の方が出来上がって昭和27年10月に開業した店舗となります。

こちら老朽化となってしまう、10年前の平成25年5月にこちらに移転しております。

この新しい店舗も、早10年を迎えるので本当に月日が流れるのは早いという感じでございます。

こちらは日本銀行本店です。東京都に日本橋にあります。日本銀行は日本の中央銀行として明治15年、1882年10月10日に開業しております。

日本銀行の歴史について話します。明治時代になって、政府は紙幣を発行し始めます。明治10年に西南戦争、国内最古の内戦が勃発して、その戦費を賄うために政府がたくさんの紙幣を発行しました。すると、激しいインフレーションになってしまうのです。日本の経済がだいぶ悪いことになってしまいました。そこで政府が発行した紙幣の整理をしなければいけなくなり、信用のある紙幣の一元的な発行を目的にした中央銀行の設立がまとめられました。

当時の大蔵卿の松方正義氏が日本銀行設立に向けて尽力して、明治15年に日本銀行条例が制定されて日本銀行が営業を開始しました。こちらは明治15年の営業開始当時の日本銀行本店です。今とは違って、日本橋箱崎町にありました。

こちらは、今の本店の開業時です。設計者は辰野金吾です。東京駅の設計者としても有名です。道内では小樽支店、今の金融資料館の設計も辰野金吾が担当しました。

日銀は全国に32の支店がございます。北海道には、札幌、函館、釧路にありまして、支店のほかに事務所も設置しております。事務所は全国に14あり、道内には旭川と帯広に設置しております。このようにたくさんの支店があるのは、全国にくまなく現金が流通するようにということが狙いになっています。道東の範囲がとても広いので帯広事務所を設置しております。日本銀行釧路支店の業務区域は釧路、十勝、根室の3振興局の区域となっております。十勝には日銀の帯広事務所を設置して一緒に仕事をしています。

続きまして日本銀行の目的ですが、3つの大きな目的があります。はじめは、日本銀行といえば何よりもお札の発行・流通・管理を業務にしております。日本銀行はわが国唯一の発券銀行として皆さまがいつでも安心してお金を使っていたらけるように努力をしております。

二番目に、決済と金融システムの安定です。日本銀行はお金の受払・決済ですが、貸し借りが安定して安心して行えるようにすること、すなわち金融システムの安定に努めております。

三つ目が物価の安定と金融政策です。皆さんが安心してお金を使えるようにするためには、モノの値段が安定していることが何よりも大切になってきます。日本銀行では物価や経済の動きをしっかりと調べて、お金の

価値を安定させるように努めております。簡単にいえば、皆さんが安心してお金を使えるようにするための仕事をしているのです。

この三つの使命を果たすために当店では、3つの課に分かれて仕事をしております。まず、発券課。字が示すとおり銀行券・お札に関する仕事です。続いて業務課。銀行の銀行とか、政府の銀行と呼ばれる仕事をしております。三つめが総務課。こちらは物価の安定とか金融システムの安定に関連するいろいろな企業や金融機関への調査などを行っております。

お札の一生について話してみます。お札を印刷しているのは、日本銀行ではなくて国立印刷局で印刷をしています。ここで印刷された新しいお札は、一旦、日本銀行の金庫に運び込まれます。日本銀行の金庫から金融機関様がお金を下す形でお持ちになります。その金融機関様にあるお金を国民の皆さまが自分の預金を下す形で皆さまの手元にお金が行くことになります。

そうして国民の皆さまが生活をする中で買い物をするなどでお金を使いますと、お金はお店に移ります。お店では売上金が貯まってきて、そのお金を自分の口座がある金融機関に預けます。金融機関に貯まったお金は、金融機関さんは日本銀行に口座を持っていますので、日本銀行にある口座に入金します。このようにお金は世の中をぐるぐる回るような形になっています。

「傷んだお金の引き換え」と書いてありますが、破れていたり、汚れて、皆さんが「お店では使えない」というようなお札を日本銀行では無料で引き換える業務も行っております。



業務も行っております。

発券課の仕事について説明します。金融機関との間でたくさんのお金を支払ったり、受け

入れたりしています。お札そのものは、枚数での取引ではなくて、金融機関との間では多額になりますのでビニールパックの形でまとまった大きな単位でお支払いをしています。

金融機関さんは毎朝、たくさんのお金を当店に取りに来て、こちらはお支払いしています。夕方になると、入金しにいらっしゃることになります。去年（2023年）の1年間で、当店窓口での受払の金額は約2600億円、後ほど40億円の模型を見ていただきますが、その65倍くらいの金額になります。

受払の業務の他に発券課では、世の中で使われて日本銀行に戻って来たお札の中に「偽物はないか・汚れていないか」と調べています。これを監査と呼んでいる業務です。写真は小さいですが、このように全て一

枚一枚が機械の中を流れて行き、検知というもので本物か偽物か、汚れているか、また使ってもらえるか、の判別をしてまた使える物は皆さんに使っていただけるように整理をし直して世の中に出しております。「使えない」と判断されたお札は細かく裁断します。皆さまのお手元に小さなビニールパック、日銀からのお土産はこれくらいしか用意できません、すみません。このビニールパックのお札が世の中を回って来て、汚れてしまって「もう使ってもらえない」と判断されて細かくシュレッターしたものです。



こちらは全て本物でして、1万円のシュレッターですがビニールパックの中だけでご覧ください。出しても1万円にはなりませんので、そのままでお楽しみいただければと思います。

1万円札、5千円札、千円札には寿命があります。1万円札は発行されてからシュレッターされるまで、どれくらいの年数で使っていただけると思われますか。

なかなか発言しにくいですよ。だいたい、4年から5年使っていただけます。結構、長い期間を使っていただけます。5千円札と千円札は1年から2年で、これはおつりとかで使っていただけるので使用頻度が高いため、このような期間となっております。

先ほど、お引換の話をしました。間違えて破ってしまったお札、よくあるのはのし袋に入れていて間違えて破ってしまったとかお聞きします。それと汚れてしまったお金、昔に使われていたお金などを鑑定して本物であれば無料で新しいものと交換する引換業務を行っています。

これは、今年の能登半島の時です。お正月のお昼で火事が多かったので、お札がたくさん燃えてしまいました。貨幣も焼けるとくっついてしまうのです。例えば、お札であれば一枚一枚をきれいに並べて、そのお札が本物かどうかを鑑定して、残っている面積を確認します。同一券だと判断できる残った面積によってお引換する金額が決まるという引換の業務もやっております。このように粉々になった物も全部確認します。

今度は業務課の仕事です。銀行の銀行、金融機関とのお金のやり取り、政府の銀行、政府とのお金のやり取りを行っている課です。銀行の銀行では、金融機関さんのお金を預かったり、金融機関にお金を貸し出ししたりしているので銀行の銀行と呼ばれています。当店と日銀の当座預金の契約をしていただいて、金融機関さんが日本銀行に口座を持っております。金融機関はその口座のお金を引き出したり、預けたりしてお金を

出し入れしています。その他に、金融機関さん同士の資金の送金なども、実際にA銀行からB銀行に現物をもって動かしているのではなく、A銀行B銀行が日本銀行に置いている金融効果の間で取引決済をするシステムを日本銀行は提供しています。これが日本銀行金融ネットワークシステムです。

次は、政府の銀行です。国は日本銀行に口座を持っています。税金の支払い、国税ですが税金の支払いとか年金の受け入れなども、最終的には日本銀行の口座に戻ってきます。

最後、総務課の仕事です。総務課の仕事の調査には2種類あり、産業調査と金融調査があります。産業調査は、釧路・帯広・根室の3地域の会社さんにいろいろ話を伺います。例えば、水産では「いま、どのような魚が獲れていますか」「水揚げ高はどうですか」「水産加工の品物はどのような物ですか、売り上げはどうですか」というような話を聞いて、道東の景気は今、いいのか・悪いのかを判断しています。その調査結果を月に1回、記者会見の場を設けて「今の道東はどうなっているのか」を発表しています。新聞にも、日本銀行釧路支店の調査結果が出ておりますので、毎月中旬から下旬にいつも発表されますので、その記事をご覧ください。あんな話だなど思い出していただければウレシイです。

続いて、金融調査です。これは、銀行の健康診断のようなものを行っております。銀行さんの金融状態を確認して、破綻するような危ない経営に陥っていないかなどを確認しています。破綻などしますと、例えばATMでお金を下すことにも支障が出てきて経済が混乱しますので、そのような事態を招かないためにこのような調査をしております。

最後に、この建物とか設備の管理、経費の支払い、私たち職員の給料とか勤務管理も総務課で行っております。いま行っている広報の仕事も総務課の仕事になっております。

以上、駆け足でしたが日本銀行はこのような仕事をしておりまして、意外と皆さんの生活に関わった仕事をさせていただいております。財布を開くとお札が入っていて、そこには日本銀行がたくさん絡んでいきますので少し親しく思っただけでしたら嬉しいです。

それでは、続いて体験の時間に移りたいと思います。

廊下側にお座りの方は、隣の展示室での体験を先にお願いたします。

窓側の席の方は、偽造防止の話をさせていただきますのでそのままお待ちください。

これからは、皆さんが実際にお持ちのお札を使わせていただいて、本物か偽物かを確認させていただきます

す。1万円札、5千円札、千円札のどれでも構いません。7月3日に発行された新しいお札であればいいのですが、ご用意いただけましたか。

お札はこのように小さな紙ですが、いろいろな技術が盛り込まれておりまして偽札を防止しております。紙は、触ってみると少し厚手で、普通の紙とは違う手触りを感じられると思います。実は、材料が違います。ミツマタやマニラ麻という大変丈夫な原料でできています。破れにくいことがあります。偽札を作る手取り早い方法は、カラーコピーとかパソコンのスクリーンで取り込んで印刷する方法かと思いますが、カラーコピーでは普通のコピー用紙であれば、触ただけでも偽札か本物かは判断できることになります。

文字の所を触っていただくと、盛り上がっていると思います。深凹版印刷と言いまして、わざとインクを高く盛り上げて印刷しています。これをカラーコピーなどにとただの平坦な印刷になります。

スカシです。これは渋沢さんシリーズのスカシです。スカシは真ん中の白い所を見ていただくと、人物が印刷されていると思います。このスカシの技術は、紙の厚さを調整してこのような顔を作っています。黒く見える所が紙の厚い所です。肌のように白い所は紙の厚さが薄い所です。すごく精緻な技術で作っているのでも顔が分かりやすくなっています。

この新しいお札のシリーズは、もっと技術を加えています。背景にもスカシ入りの模様を作っています。ひし形の着物の帯のようなものが入っています。これは「高精細すき入れ」と言います。とても難しい技術で、このスカシの技術は世界的に見ても、日本は第一番の技術と言われております。

もうひとつ、スカシがあります。人物の肩の所をすかして見てください。

「すき入れバーパターン」と言いますが、縦バーのスカシが入っているのが分かりますか。1万円札が3本、5千円札が2本、千円札が1本と券種によって違います。確かに見えづらいかもかもしれません。

続いてホログラムです。今回は3Dホログラムと言いまして、顔が動く技術です。人物が写っている所に注目していただき、お札をたわませて動かすと、左を向いている人物の首が正面を向くというものです。これは千円札の顔が大きく一番見やすいです。これまでもホログラムは入っていたのですが、模様が変わったのですが首までは動かなかったのでも、すごく進化しています。このホログラムをコピーすると黒く写ってしまい、キラキラした感じには写らないし、首はもちろん動きません。





では、虫メガネを使って見ていただきます。「マイクロ文字」という技術があります。虫メガネを使わないで見ると、線に見え

ていた所が虫メガネで拡大して見ると「NIPPONGINKO」の文字が連続して入っています。今回のお札はマイクロ文字がとても小さくて分かりづらいです。今回は答えを先に言ってしまうので、皆さんはそこに注目して見てください。1万円札と5千円札ですが、人物の下に10000円と5000円という茶色と紫の模様の上に数字が書いてあるのが分かりますか。右下で、すごく小さいです。これをコピーしたら文字がつぶれてしまいますので、これも偽造防止です。なんと、お子さんたちは虫メガネなしの裸眼で見えます。

次に、お手元にライトがあります。ライトのスイッチを押し下げると青い光が付きますので、付けてください。お札の人物肖像面（表面）に印が押ししてあります。この印にライトを近づけると印が光ります。これは特殊発光インキといいまして、紫外線ライトに反応して光るインクです。これもカラーコピーをとると発光インクではないので光りません。裏にも印があるのですが光りません。光らなくて正解です。

いろいろと偽札防止策をご紹介しました。日本の技術はとても高い技術でして、他国に比べて偽造券の発見枚数が低くなっています。銀行券100万枚に対して例えば、アメリカでは100枚くらい出ます。カナダでも23枚出ますが、日本は0.1枚となっています。このような高い技術が盛り込まれていること、日本銀行のシュレッターの話をしてしまいましたが少しでも汚れていたり、破れていたり、折れていたり、よれていたら全て損券として切ってしまうので、常に皆さんには

きれいなお札を利用させていただくように頑張っています。

これからもぜひ、親しみを持ってお札を使っていただければと思います。今日の皆さんのお札は全て本物でした。良かったです。お札はおしまってください。ご協力をありがとうございました。

偽造防止 第2班のお話（同様の説明のため記録作成を省略）

謝辞 高橋 直人会長

日本銀行釧路支店支店長鈴木様、ありがとうございました。本日は業務時間にも関わらず、誠にありがとうございました。

普段、聞くことのないお話をたくさん聞かせていただきました。これからも日本経済の成長を支えていただきますようお願い申し上げます。私の謝辞とします。ありがとうございます。